3

システム機能の説明

本章では、システムの機能について説明しています。

1 日本語入力システム MS-IME について 74
2 インジケータ領域について 76
3 ディスプレイ解像度の変更 77
4 ドライバのインストールについて 81

1 日本語入力システム MS-IME について

1 MS-IME ツールバーの表示

本製品には Microsoft 社製の日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。MS-IME のバージョンはお使いになるシステムによって異なります。

- Windows 98 ご使用時　：MS-IME98
- Windows 2000 ご使用時　：MS-IME2000
- Windows NT ご使用時　：MS-IME97

1 タスクバーの日本語入力インジケータ（MS-IME 日本語入力システムアイコン）をクリックする

メニューが表示されます。

2 ［ツールバーを表示］をクリックする

MS-IME のツールバーが表示されます。

- MS-IME2000／98 ツールバー

- MS-IME97 ツールバー

なお、上記メニューの［ツールバーを表示］をもう１度クリックすると、MS-IME のツールバーは画面から消えます。

2 入力文字種の選択

入力する文字種の選択は、次のように行います。まず、MS-IME のツールバーの左端のボタンをクリックすると文字の種類を選択するメニューが表示されます。ここでは、［ひらがな］または［全角ひらがな］をポイントしてクリックします。ツールバー左端のボタンは、［あ］に変わり、全角ひらがな入力が可能になります。

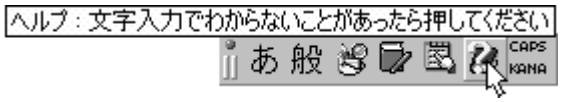
- MS-IME2000／98 の場合

- MS-IME97 の場合

❸ MS-IME ツールバーの使用方法

MS-IME の詳しい使用方法は、次の MS-IME ツールバーの［ヘルプ］ボタンをクリックしてお読みください。

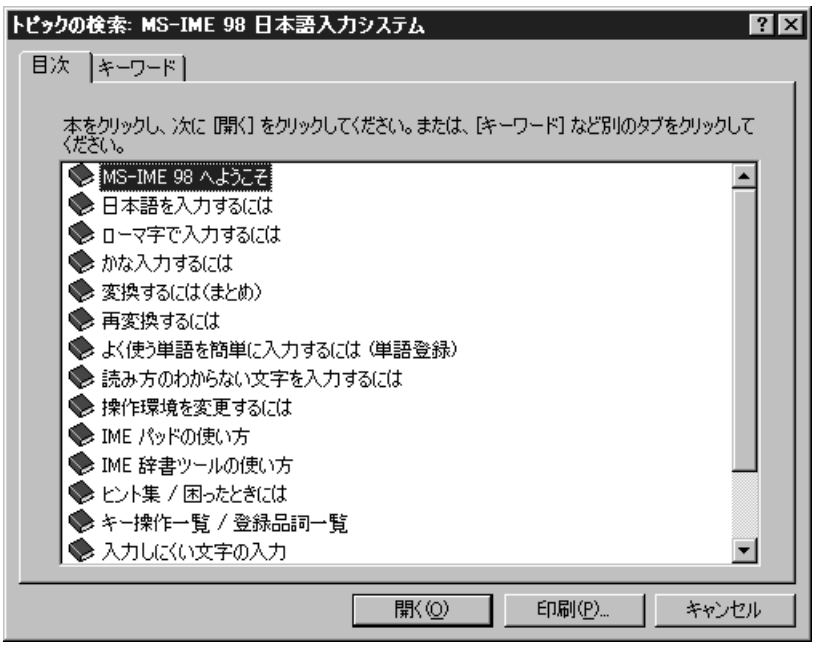
● MS-IME2000 ／ MS-IME98



● MS-IME97

MS-IME2000 ／ 98 の場合、［ヘルプ］ボタンをクリックして表示されたメニューから［目次とキーワード］をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。MS-IME97 の場合、［ヘルプ］ボタンをクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。知りたい項目をクリックしてお読みください。

画面は MS-IME 98 を例にしています。



② インジケータ領域について

ここでは、タスクバーインジケータ領域と日付と時刻の設定について簡単に説明します。

① 日本語入力インジケータ

日本語入力インジケータ をクリックすると、MS-IME ツールバーの表示／非表示、日本語入力オン／オフの切り替えを行うことができます。

☞ 使用方法について ➪「本章 1 日本語入力システム MS-IME について」

② 音量インジケータ

音量インジケータ をクリックすると、本装置に接続されたスピーカの音量を設定することができます。なお、ダブルクリックすると［ボリュームコントロール］の画面が表示されて、より詳細な設定ができます。

③ 日付と時刻の設定

タスクバー右端の時刻の部分をダブルクリックすると、日付と時刻の設定を行うことができます。

④ 画面インジケータ (Windows 98 モデル)

画面インジケータ をクリックすると、ディスプレイの解像度を変更することができます。画面インジケータは、Windows 2000 ／ NT モデルでは、表示されません。なお、ダブルクリックすると「画面のプロパティ」の画面が表示されて、より詳細な設定を行うことができます。

☞ 「画面のプロパティ」でディスプレイ解像度を変更する
➪「本章 3 ディスプレイ解像度の変更」

③ ディスプレイ解像度の変更

ここでは、ディスプレイ解像度や表示できる色数を変更する方法を説明します。

Windows 98 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

［コントロールパネル］画面が表示されます。

2 ［画面］アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。

メモ

・タスクバーの画面インジケータ をダブルクリックしても、同様の画面が表示されます。

(注)画面は一例です。

3 ［設定］タブをクリックする

［色］、［画面の領域］の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。

(注)画面は一例です。

4 設定が終了したら、［OK］ボタンをクリックする

設定を保存して、［画面のプロパティ］画面を閉じます。

Windows 2000 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

［コントロールパネル］画面が表示されます。

2 ［画面］アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。

(注)画面は一例です。

3 ［設定］タブをクリックする

［画面の色］または［画面の領域］の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。

(注)画面は一例です。

4 設定が終了したら、［OK］ボタンをクリックする

設定を保存して、［画面のプロパティ］画面を閉じます。

Windows NT の場合

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］-［コントロールパネル］をクリックする**

［コントロールパネル］画面が表示されます。

2 **［画面］アイコンをダブルクリックする**

画面のプロパティが表示されます。

(注)画面は一例です。

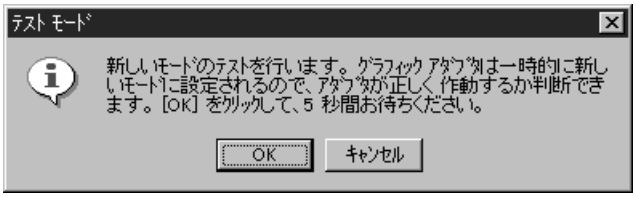
3 **［ディスプレイの設定］タブをクリックする**

［カラーパレット］または［デスクトップ領域］の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。

(注)画面は一例です。

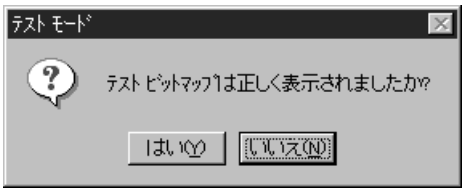
4 設定が終了したら、［テスト］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



5 ［OK］ボタンをクリックする

テスト画面が表示され、テスト後、次の画面が表示されます。



6 正しく表示された場合は［はい］ボタンをクリックする

表示に問題があった場合は、［いいえ］ボタンをクリックし、正しく設定し直してください。

7 テストが正しく終了したら、［OK］ボタンをクリックする

設定を保存して、［画面のプロパティ］画面を閉じます。

メモ

・ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更の際は、接続しているディスプレイに合った設定にしてください。

☞ 詳細について ➪『ディスプレイに付属の説明書』

4 ドライバのインストールについて

ドライバのインストールについては、各ドライバのマニュアルに従ってインストールしてください。

Windows 98 の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合、［ディスクの挿入］画面が表示される場合があります。

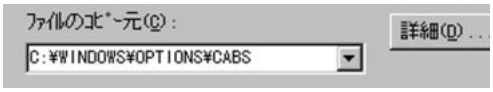
このような場合は、次の手順でインストールを継続してください。

1 ［ディスクの挿入］画面の［OK］ボタンをクリックする

［ファイルのコピー］画面が表示されます。

2 ファイルのコピー元を入力する

［ファイルのコピー元(C):］に「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」と入力します。



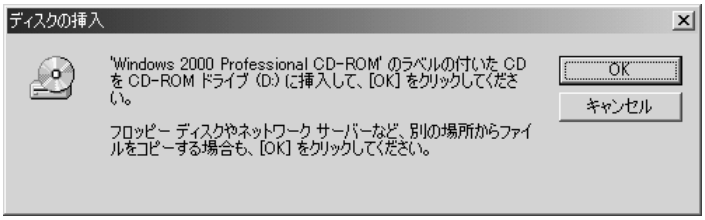
3 ［OK］ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

以上の操作を行なっても正しくインストールできない場合は、ドライバの提供元にお問い合わせください。

Windows 2000 の場合

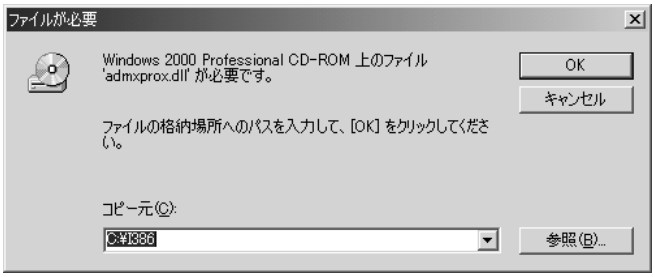
Windows コンポーネントの追加や、ドライバのインストールを行なっている場合、［ディスクの挿入］画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

1 ［ディスクの挿入］画面の［OK］ボタンをクリックする

［ファイルが必要］画面が表示されます。



2 コピー元を入力する

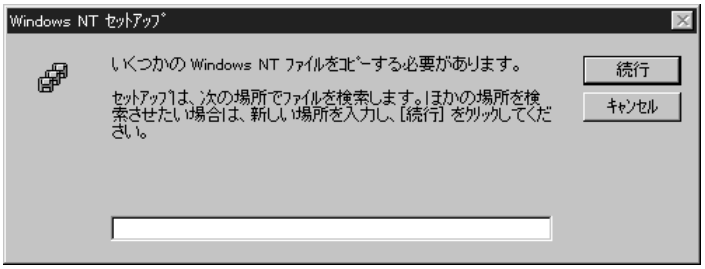
コピー元に、［C:\i386］と入力します。

3 ［OK］ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

Windows NT の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合、［Windows NT セットアップ］画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

1 ファイルを検索する場所を入力する

ファイルを検索する場所に、［C:\i386］と入力します。

2 ［続行］ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

4

機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードや
メモリカードなどを取り付ける方法について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1 作業を始める前に 86
2 LAN の接続 88
3 プリンタの接続 96
4 マイク（別売り）の接続 100
5 スピーカ（別売り）の接続 101
6 本体カバーの取りはずし、取り付け 102
7 フロントパネルシャーシの移動 105
8 オプションカード 107
9 増設メモリカード 112
10 内蔵バッテリの交換 117

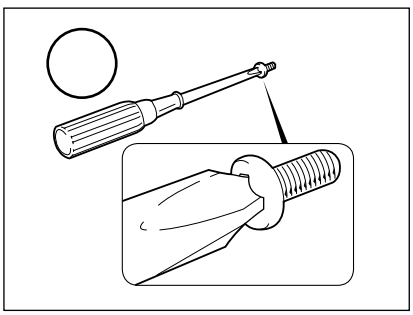
1 作業を始める前に

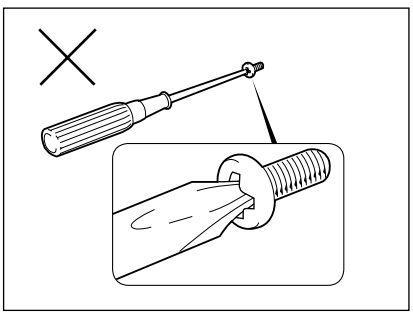
お願い

・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

●湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。
●温度範囲は 10 ～ 35℃、湿度範囲は 20 ～ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
●必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。
●注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。
●各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。
●取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
●静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
●必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行なってください。
●作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。
内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。
●取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
●ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
●異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。
●オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。
●コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。





●本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
●電源コードの接続は、①アース線、②プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、①プラグ、②アース線の順に行なってください。

注 意
・この章で説明されている「6 節 本体カバーの取りはずし、取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて 1 分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋をしてください。

お願い
・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。
・＋（プラス）ドライバ
・作業用手袋
・取りはずしたネジなどを入れる袋

オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。
☞ 設定について
➪「5 章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

② LANの接続

本装置には、Fast Ethernet LAN （100BASE-TX）Ethernet LAN（10BASE-T）に対応したLANが内蔵されています。ここでは、LANケーブルの接続、LANインタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

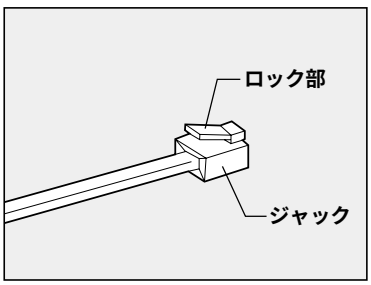
① 適正なケーブルの確認

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mビット／秒）でご使用になるときは、必ずカテゴリ5（CAT5）のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。
10BASE-T規格（10Mビット／秒）でご使用になるときは、カテゴリ3または5のケーブルが使用できます。

② LANケーブルの接続

お願い

・LANケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



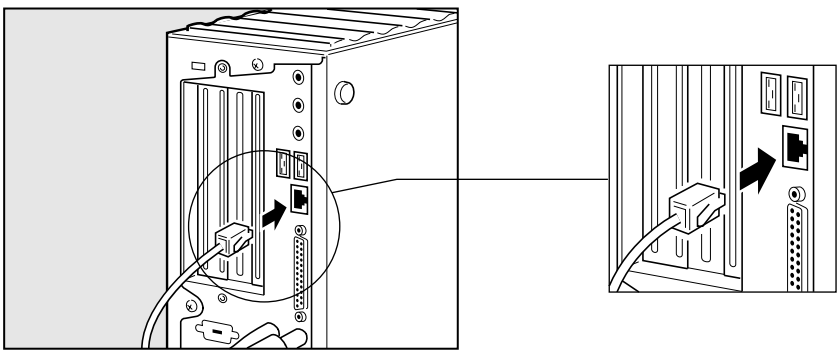
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

4 LANケーブルのジャックを本体背面のLANコネクタに差し込む

パチンと音がするまで差し込んでください。



5 LANケーブルのもう一方のジャックをHUB（ハブ）のコネクタに差し込む

HUB（ハブ）の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 テクニカル情報

Fast Ethernet ケーブル

100BASE-TX

100BASE-TX では、2 組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる 100Mbps の転送をサポートしており、カテゴリ 5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TX のセグメント長は、最大 100 メートルに制限されています。

Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまな Fast Ethernet 仕様をサポートする HUB が次々に発表されています。これらの HUB は大きく分けて、シェアード HUB とスイッチング HUB の 2 つのタイプがあります。EQUIUM シリーズの LAN インタフェースでは、どちらのタイプの HUB でも使用できます。

シェアード HUB（ハブ）

シェアード HUB を使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100Mbps のシェアード HUB の場合、ハブ上の全ノードが 100Mbps の帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。
シェアード HUB は、全車が 1 レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。
シェアード HUB の場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbps または 100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUB の場合、10BASE-T リピータの 10 倍の 100Mbps の帯域幅を提供します。

スイッチング HUB（ハブ）

スイッチング HUB を使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つことになります。
スイッチング HUB では、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUB に接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。
スイッチング HUB では、一部のノードを 10Mbps で使用し、他のノードを 100Mbps で使用できるものもあります。スイッチング HUB は洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1 接続あたりの費用は一般にシェアード HUB より高価になります。

4 Windows 98 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。ご購入時には既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。

注 意　・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows セットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

お願い　・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする

3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。

（注）画面は一例です。

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

●ネットワーククライアント ..... ほかのコンピュータに接続する機能です。
●プロトコル ..... コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
●アダプタ ..... コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
●サービス ..... このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

4 [識別情報] タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループをネットワーク管理者の指示に従い、設定する

（注）画面は一例です。

注 意 **・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値（Default、Default_Wg）の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。**

5 **［アクセスの制御］タブをクリックし、変更を行う**

ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

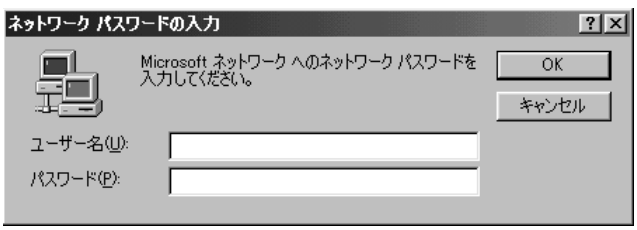
6 **設定が終了したら、［OK］ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する**

起動時のパスワードの入力

1 **パソコンの電源を入れる**

2 **ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する**

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

5 Windows 2000のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

注 意 **・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。**

お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

1 Administrator権限でログオンする

2 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

3 [ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする

4 [ローカルエリア接続]アイコンにマウスのポインタを合わせて右クリックする

5 プロパティを選択する

6 ネットワーク接続の設定を行う

セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ　：Intel 8255X-based PCI Ethernet Adapter（10/100）
クライアント：Microsoftネットワーク用クライアント
サービス　：Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有
プロトコル　：インターネットプロトコル（TCP/IP）

ネットワーク上でのコンピュータ識別

1 Administrator権限でログオンする

2 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

3 [システム]アイコンをダブルクリックする

4 [ネットワークID]タブを選択する

5 ネットワークIDとプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン／ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。
変更する場合はここで再設定してください。

6 Windows NT のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

注 意 **・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。**

・ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

1 Administrator 権限でログオンする

2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする

3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする

4 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う

詳細は付属の『ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。
なお、ご購入時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	：Intel 8255X-based PCI Ethernet Adapter（10/100）
プロトコル	：NetBEUI
識別	：WORKGROUP
コンピュータ名	：初期セットアップ時に入力した名前

プロトコルなどを追加する場合「Windows NT Workstation Ver4.0 Disc1 ラベルの付いた CD-ROM を挿入してください」というメッセージが表示される場合があります。この場合は、[ファイルのコピー] 画面の「ファイルのコピー元（C：）」に「C:\i386」と入力して [OK] ボタンを押してください。

注 意 **・TCP/IP プロトコルなどを追加した場合には、設定完了後、Windows NT Service Pack6a をインストールしてください。**

☞ Service Pack6a のインストールについて
➪「付録 4-2-Service Pack6a のインストールについて」

起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。

メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

3 プリンタの接続

1 プリンタの接続

メモ ・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくはプリンタに付属の説明書をご覧ください。

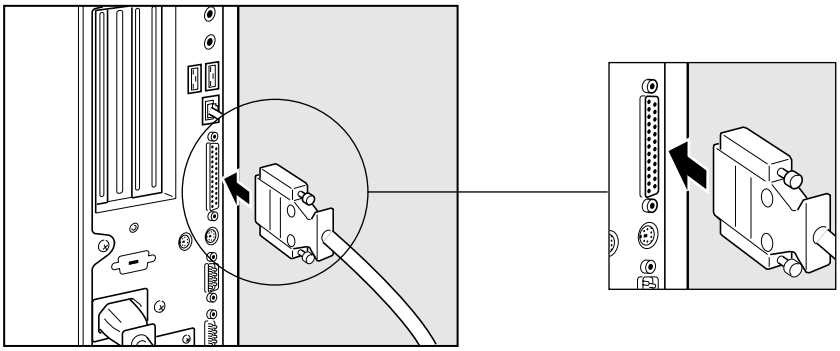
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

4 プリンタケーブルを本体背面のパラレルコネクタ に差し込む

コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバなどでしっかり回して固定してください。



5 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む

コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

② プリンタ設定について

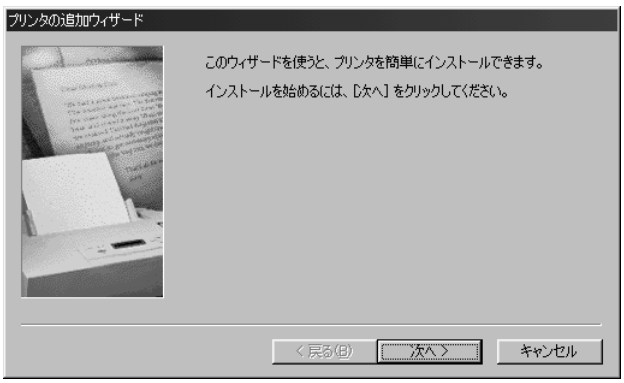
ここでは本体に接続したプリンタを使用可能にする設定方法を説明します。
画面は、Windows 98 を例にして説明します。
☞ 詳細について ➪『ご使用のプリンタに付属の説明書』

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］-［プリンタ］をクリックする

次の［プリンタ］の設定画面が表示されます。

2 ［プリンタの追加］アイコンをダブルクリックする

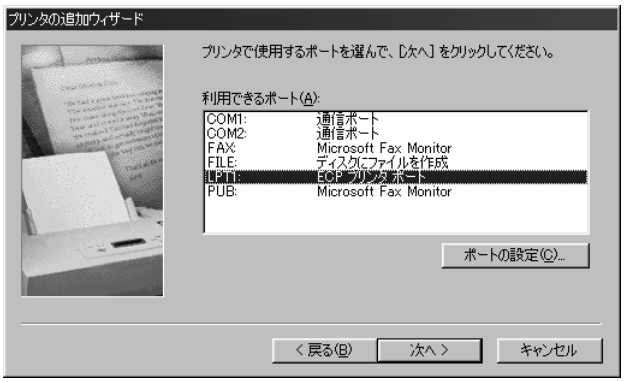
次の［プリンタの追加ウィザード］画面が表示されます。
［次へ］ボタンをクリックすると次の設定に移ります。以降の設定作業は、画面に表示される質問に答えながら作業を進めます。



プリンタ設定作業の途中で、次の画面が表示されます。
ここでは、プリンタの製造元とプリンタ名を選択して［次へ］ボタンをクリックします。
一覧にない場合は、プリンタの製造元から配給されたプリンタドライバのインストールディスクをセットし、［ディスク使用］ボタンをクリックします。

（注）画面は一例です。

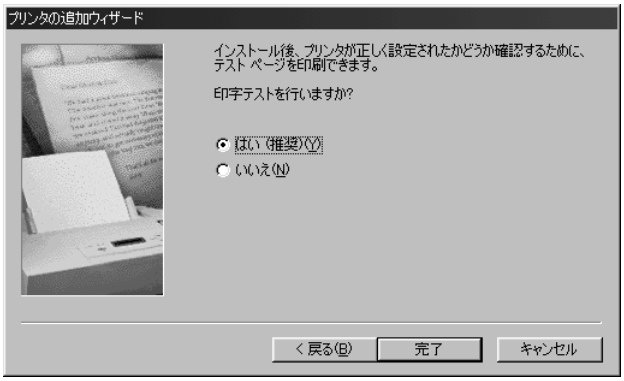
プリンタ設定作業の途中で、次の画面が表示されます。
ここでは利用するポートを選択します。
プリンタが本体のプリンタコネクタと接続されているときは、［LPT1：プリンタポート］を選択して［次へ］ボタンをクリックしてください。



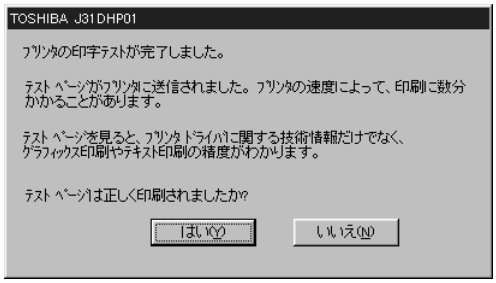
（注）画面は一例です。

プリンタ設定作業の途中で、次の画面が表示されます。
ここではプリンタ機能が正常かどうかを確認するために、テストページを印刷するかを選択します。

印刷する場合は、［はい（推奨）］をチェックし、しない場合は［いいえ］をチェックして［完了］ボタンをクリックしてください。



［はい（推奨）］をチェックした場合、しばらくすると「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージ画面が表示されます。
テストページが正しく印刷されているときは、［はい］ボタンをクリックしてください。印刷結果に異常がある場合は、［いいえ］ボタンをクリックしてください。『Windows のヘルプ』が表示されますので、質問に答えながら設定を変更してください。
また、本体とプリンタが正しく接続されているかも確認してください。



（注）画面は一例です。

［プリンタ］の設定画面に戻り、新規に登録されたプリンタのアイコンが表示されます。
これでプリンタの設定作業は終了です。

（注）画面は一例です。

4 マイク（別売り）の接続

本製品では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、コンデンサマイクロホンのミニジャックタイプ（3.5 φ）です。

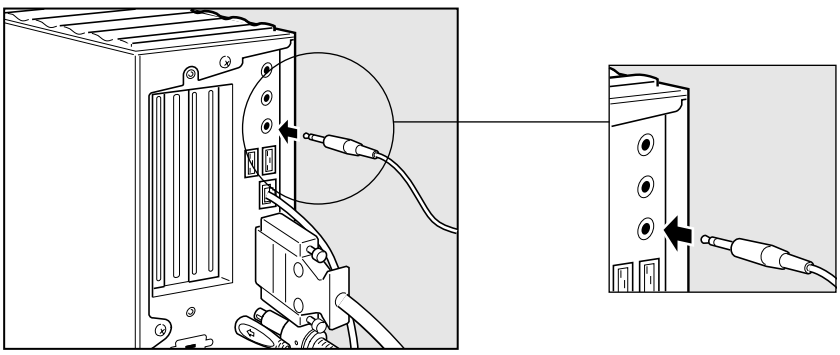
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

4 マイクのプラグを本体背面のマイク端子 に差し込む

しっかりと奥まで差し込んでください。



5 スピーカ（別売り）の接続

本製品では、アンプ付きのスピーカ（別売り）を接続できます。

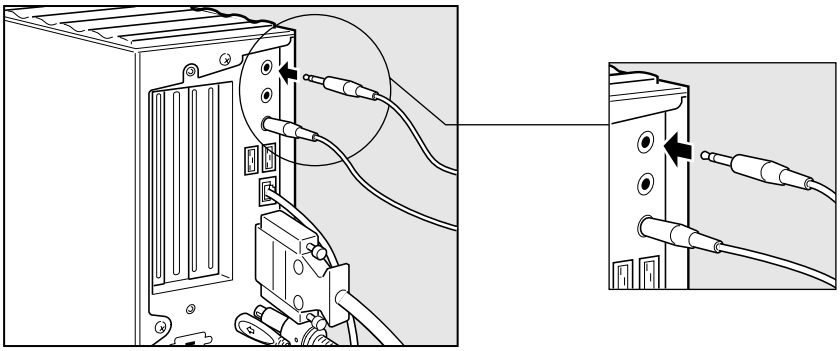
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす

4 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子 に差し込む

しっかりと奥まで差し込んでください。



6 本体カバーの取りはずし、取り付け

注 意
- **オプション装着などのほかは、カバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。**
- **本体カバー裏側のアルミ板金などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。**

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。
先に本体カバーの取りはずし方、取り付け方をまとめて説明します。
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては 8 節より説明します。

1 本体カバーの取りはずし

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

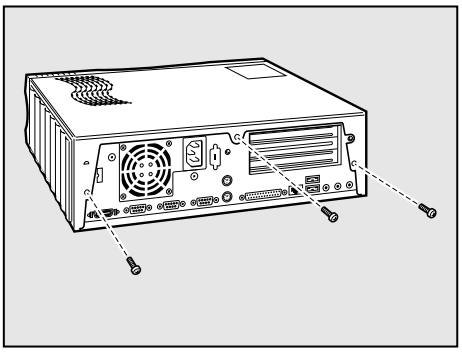
2 パソコン本体の電源を切る

3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

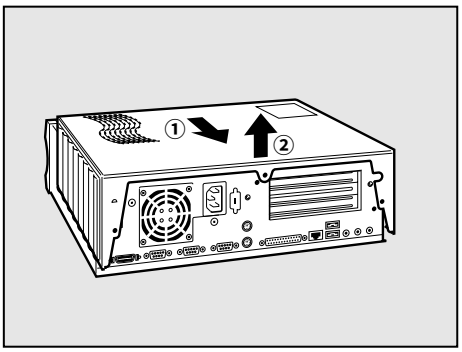
4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

注 意
- **電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差し等を行うと、故障の原因となります。必ず電源コードを抜いてから作業を行なってください。**

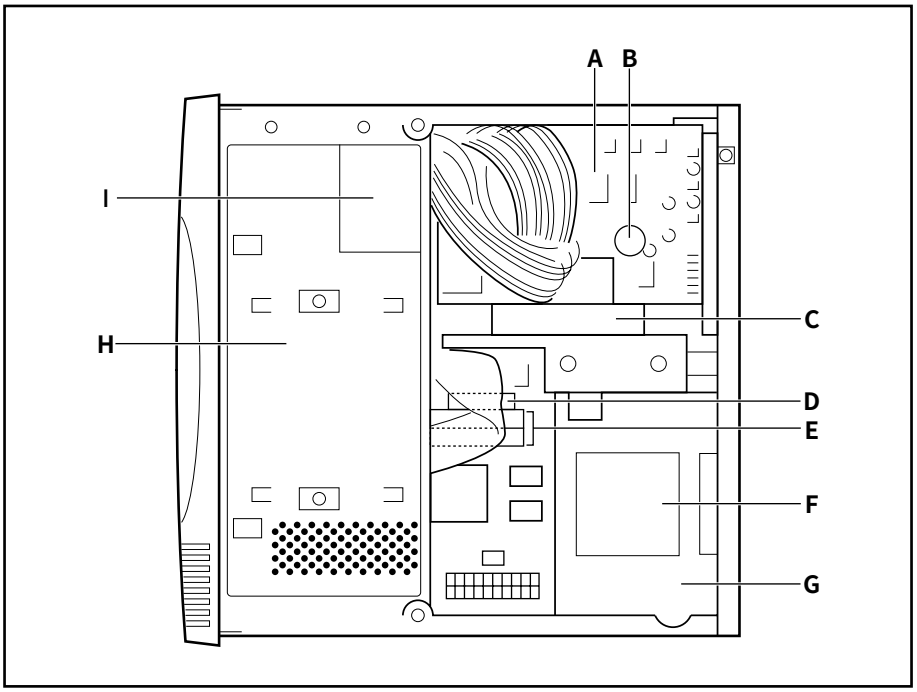
5 本体背面のネジ 3 本をはずす



6 本体カバーを後方へずらし①、まっすぐ上に持ち上げて取りはずす②



② 本体カバーを取りはずしたところ



B，C，D，E，H はユーザ作業エリアです。

A．メインボード
B．バッテリ
C．拡張スロット
D．FDD コネクタ
E．メモリスロット
F．電源警告ラベル
（電源ユニットのカバーは、はずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。）
G．電源ユニット
H．フロントパネルシャーシ
I．ケーブル挟み込み・FDD ハーネス注意ラベル

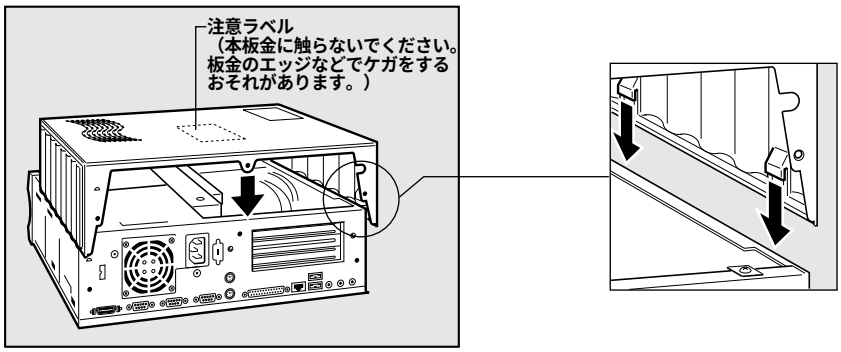
注 意　・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

❸ 本体カバーの取り付け

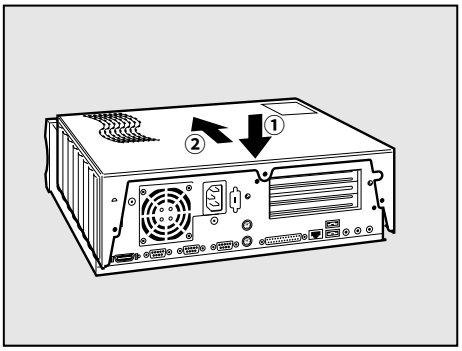
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する

3 本体カバーを、本体前面から 2cm 程度離れた位置に、カバーの左右を開くようにしてのせる

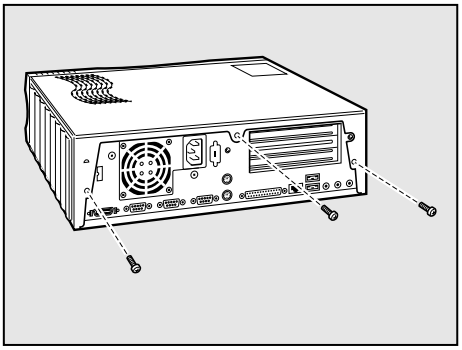


4 本体カバーの前側上面をおさえながら①、前方にスライドさせる②



⚠ **注 意** ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

5 本体背面にネジ 3 本を取り付け、固定する



7 フロントパネルシャーシの移動

オプションの取り付けをするときは、取り付けしやすい位置まで、フロントパネルシャーシをスライドさせて移動すると便利です。また、オプションによっては、フロントパネルシャーシを移動しないと取り付けられないものもあります。
先にフロントパネルシャーシの移動方法と、元に戻す方法（取り付け方）をまとめて説明します。
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

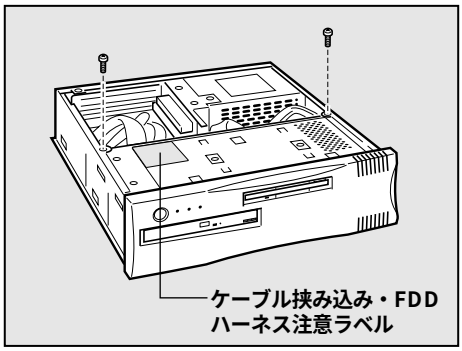
1 フロントパネルシャーシの移動

1 本体カバーを取りはずす

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

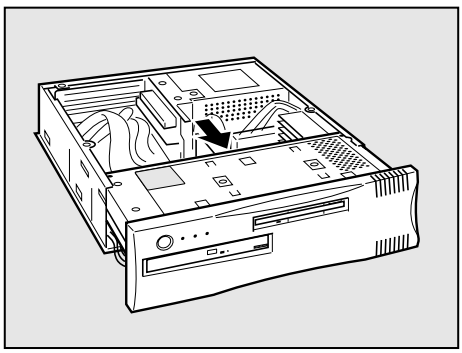
2 フロントパネルシャーシを固定しているネジ 2 本をはずす

本体カバーと内部ではネジの大きさや長さが違います。どちらのネジか分かるようにしておいてください。



3 フロントパネルシャーシを少し持ち上げて、本体の前面側にスライドさせる

FDD ハーネスがはずれないように注意し、オプションの取り付け、取りはずしがしやすい位置までスライドさせてください。
CPU のヒートシンクに引っかからないように、軽く持ち上げるようにしてスライドさせてください。

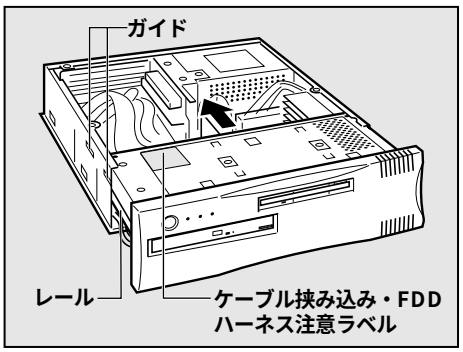


注 意
- **フロントパネルシャーシには、ケーブルが取り付けられています。ケーブルが傷つかないようにスライドさせてください。ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。**
- **フロントパネルシャーシをスライドするとき、メインボードの部品を破損しないように気をつけてください。メインボードの部品が破損すると故障します。**

② フロントパネルシャーシの取り付け

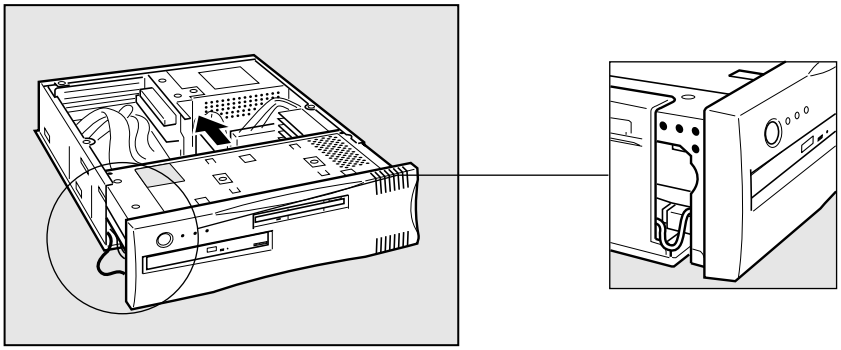
1 フロントパネルシャーシをネジ穴が合う位置までスライドさせる

フロントパネルシャーシが本体から抜けた場合は、フロントパネルシャーシの左右のレールが本体のガイドにきちんとのるように取り付けてください。
また、FDD ハーネスがはずれた場合には、接続してください。
☞「本章 9 増設メモリカード」



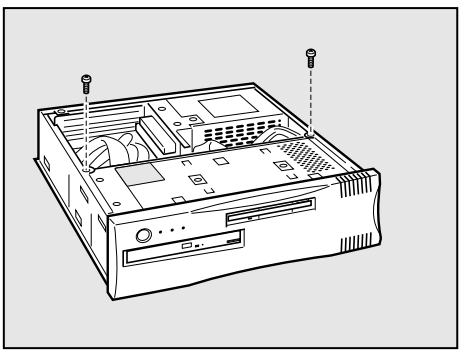
⚠ 注 意

- **フロントパネルシャーシをスライドするときにメインボードの部品を破損するおそれがあります。フロントパネルシャーシのレールは、必ず本体のガイドにのせ、メインボードの部品を破損しないように気をつけてスライドしてください。メインボードの部品が破損すると故障します。**
- **フロントパネルシャーシを取り付けるときに、次の位置のケーブルを挟まないようにしてください。**
  ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。



2 ネジ 2 本を取り付ける

フロントパネルシャーシをスライドさせるときに取りはずしたネジを取り付けてください。
ネジは、本体カバーと内部では大きさや長さが違います。



3 本体カバーを取り付ける

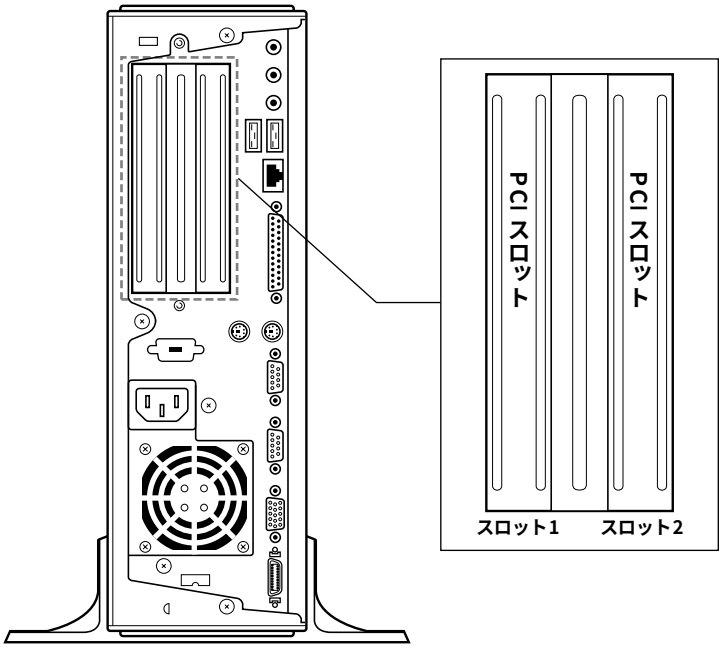
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

8 オプションカード

お願い ・PC97 規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

1 拡張スロットの位置

本体にはオプションカード用の拡張スロットが合計 2 個用意されています。



注 意 ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

☞ 電流容量について
➪「付録 2-8- PCI スロットの電流容量」
➪『各オプションカードに付属の説明書』

お願い ・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。
カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気のないところに、部品面を上にして置くようにしてください。
カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

② オプションカードの外形図

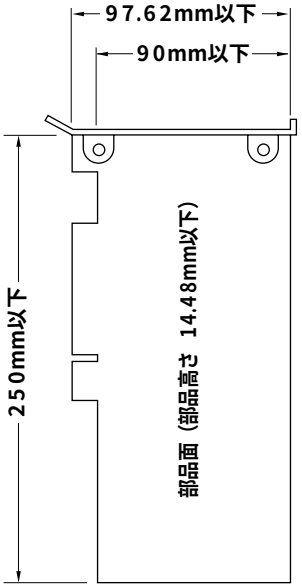
各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。

注 意　・接触による事故防止のため高さ制限を守ったカードを使用してください。

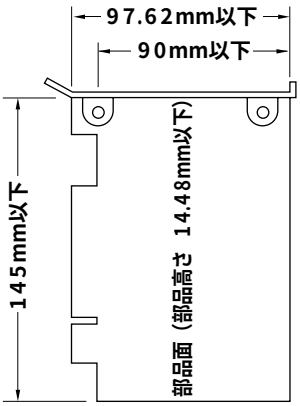
お願い

・本体内に装着できる PCI タイプカードは、次に示すサイズ以下のものです。このサイズを超える大きさのカードは取り付けないでください。故障や不具合が発生する場合があります。

スロット 1 に装着可能なカード



スロット 2 に装着可能なカード



3 オプションカードの取り付け

お願い
・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

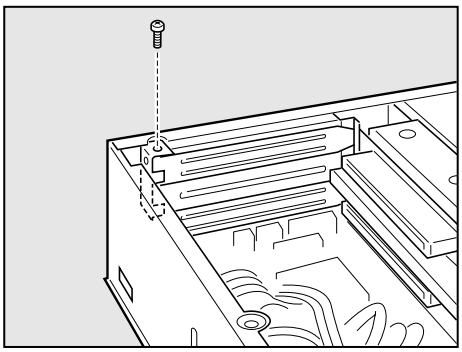
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドさせる

FDD ハーネスがはずれない程度にスライドさせてください。

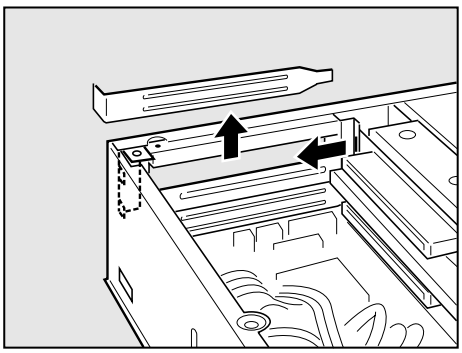
☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

4 オプションカードパネルを固定しているネジ 1 本をはずす



5 金具を外側に移動し、オプションカードパネルを取りはずす

取りはずしたオプションカードパネルは、大切に保管しておいてください。



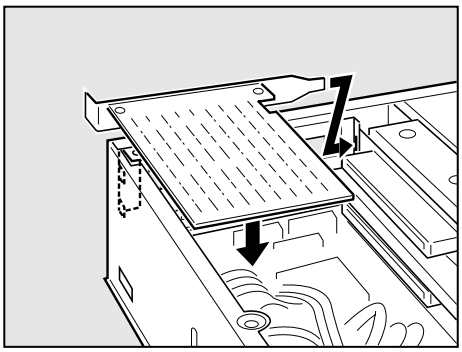
6 保護袋からオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、静電気のないところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

7 オプションカードに付属の説明書に従って、カードのジャンパやスイッチの設定をする

8 カードの上の縁、または上の角のところを持って、図のようにカードをセットする

オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れます。

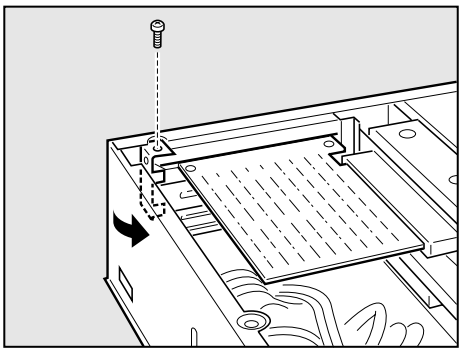


注 意 ・オプションカードをセットするときは、本体内部のケーブルを傷つけないようにしてください。ケーブルに傷がつくと、故障の原因になります。

9 コネクタパネルを、オプションカードパネルのあった場所に合わせる

10 金具を、カードを固定するようにネジ穴にあわせ、ネジを止める

このパネルが、隣のスロットのカバーやオプションカードに接触しないように気をつけてください。



11 必要があれば取り付けたオプションカードにケーブル類を接続する

12 フロントパネルシャーシを元の位置に戻す

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

FDD ハーネスがはずれてしまった場合は接続してください。

☞「本章 9 増設メモリカード」

13 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

4 オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントパネルシャーシをスライドさせる

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

4 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす

再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。

5 オプションカードのコネクタパネルと本体を止めている金具のネジをはずす

6 オプションカードの縁を持って、カードが拡張スロットコネクタからはずれるまで引き抜く

注 意
- **オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは手を傷つけないよう手袋などで保護してください。**
- **オプションカードを引き抜くときは、本体内部のケーブルに傷がつかないようにしてください。ケーブルに傷がつくと、故障のおそれがあります。**

7 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する

8 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けて金具で固定し、ネジ止めする

注 意
- **空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。**

9 フロントパネルシャーシを元に戻す

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

10 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

9 増設メモリカード

お願い
- 必ずメモリカードに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- 使用できる増設メモリカードは 1 枚です。
- 増設メモリカードは静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリカードを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、部品や IC などに触れないようにカードの縁を持ってください。
- 増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

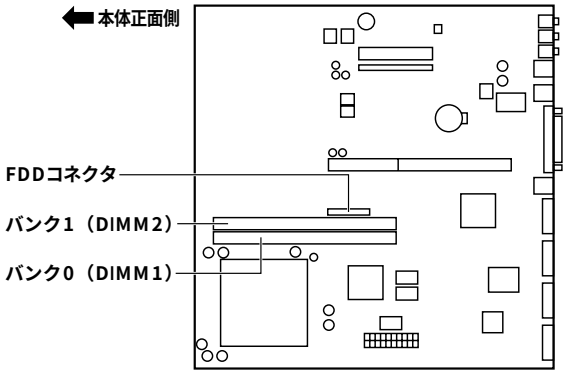
本装置には次のメモリカードが取り付けられます。
- 64MB DIMM メモリカード（ECC 無し／ PC100 規格）
- 128MB DIMM メモリカード（ECC 無し／ PC100 規格）
- 256MB DIMM メモリカード（ECC 無し／ PC100 規格）

メインボード上の 2 つのメモリソケットに最大合計 512 MB（256MB × 2）のメモリカードを取り付けることができます（標準メモリとしてメモリカードが 1 枚～ 2 枚取り付けられています）。
標準メモリのメモリカードを取りはずし、256 MBのメモリカードを 2 枚実装することにより、512 MBのメモリ容量にすることができます。
メモリ増設ソケットは、DIMM1 がバンク 0 用、DIMM2 がバンク 1 用です。

メモリ1枚	増設メモリ1枚		
	64MB	128MB	256MB
64MB	128MB	192MB	320MB
128MB	192MB	256MB	384MB
256MB	320MB	384MB	512MB

注 意
- **システムバスクロックは、PentiumIII モデルの場合 133MHz、Celeron モデルの場合 66MHz ですが、メモリは 100MHz で動作します。そのため、ECC 無し／ PC100 規格のメモリカードのみ取り付けられます。メモリ増設の際は、本製品に合ったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。**
- **メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。**

メモ
- ECC 機能はサポートしていません。



1 増設メモリカードの取り付け

増設メモリカードの取り付け方法について説明します。

注 意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子や IC などに触れないよう、縁を持ってください。

1 **「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する**

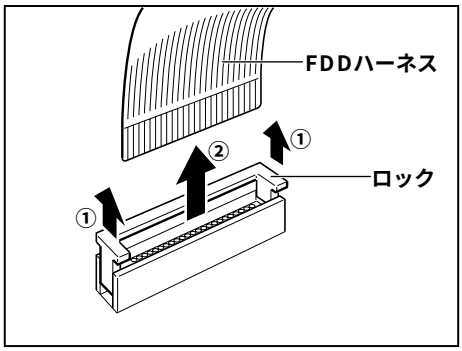
2 **本体カバーを取りはずす**

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

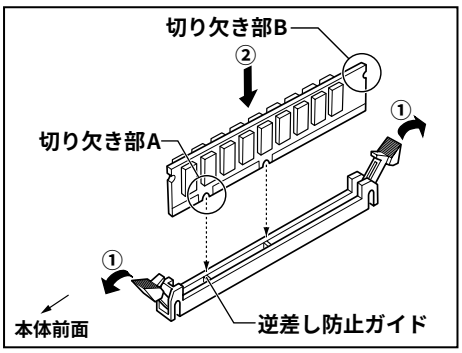
3 **フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドする**

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

4 **FDD コネクタのロックをはずし①、FDD ハーネスを取りはずす②**



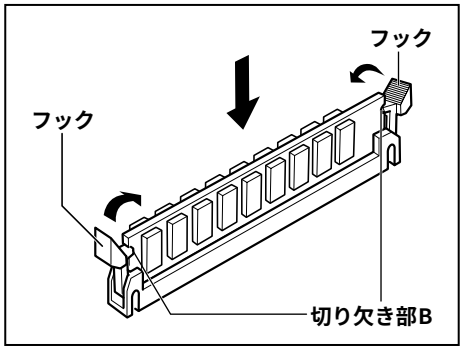
5 **左右のフックを矢印の方向に倒し①、増設メモリカードの切り欠き部 A を、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる②**



注 意 ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

6 増設メモリカードを真上から押し込む

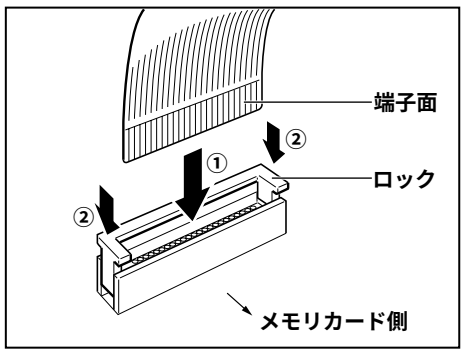
左右のフックが切り欠き部 B に掛かるように、増設メモリカードをしっかり押し込みます。
増設メモリカードが左右のフックで固定されます。
左右のフックが垂直に立ち、増設メモリカードを固定していることを確認してください。



注 意　・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

7 FDD ハーネスを元のコネクタに接続する

FDD ハーネスを FDD コネクタに差し込み①、ロックします②。
このとき、FDD ハーネスの端子面がメモリカード側にくるように、差し込んでください。



8 フロントパネルシャーシを元に戻す

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

9 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

以上で増設メモリカードの取り付けは完了です。
増設したメモリカードが認識されているか、確認してください。

メモリ増設の確認

1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

[コントロールパネル]画面が表示されます。

2 [システム]アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

合計のメモリ量が表示されます。

（注）画面は一例です。

3 [全般]タブのRAMの数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう一度正しく増設メモリカードの取り付けを行なってください。

- 電源が入らない
- システムが起動しない
- 数値が合っていない

メモ

・VRAMとしてメインメモリを使用しているので、1MB少なく表示されます。

② 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

注 意 **・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子や IC などに触れないよう、縁を持ってください。**

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

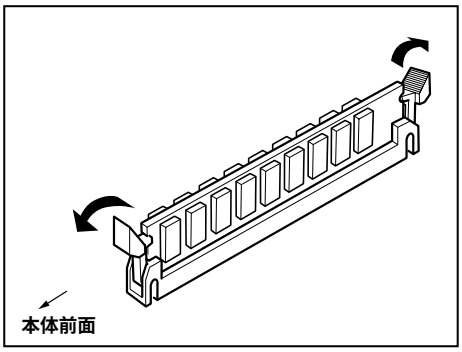
3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドさせる

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

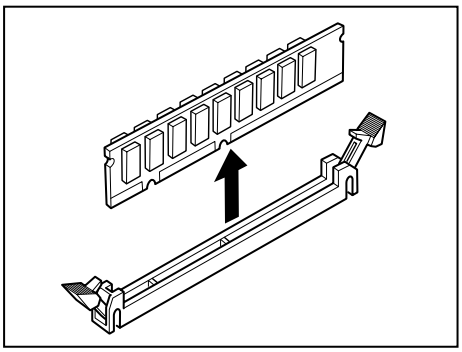
4 FDD ハーネスをはずす

5 ソケットのフックを両側に開く

増設メモリカードが少し出てきます。



6 増設メモリカードを真上に引き抜く



7 FDD ハーネスを元のコネクタに接続する

8 フロントパネルシャーシを元に戻す

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

9 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

10 内蔵バッテリの交換

このバッテリは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。
通常の使用環境では、バッテリの寿命は約 3 年です。
バッテリが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS Checksum Bad

注 意
・本装置の内蔵バッテリには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
取り扱いを誤ると、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。
・充電、電極除去、分解をしない
・100℃以上の加熱、焼却をしない
・電池は水にぬらさない
・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない
リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。

お願い
・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。
本装置に使用できる内蔵バッテリは CR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販の CR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。
☞「5 章 BIOS セットアップについて」

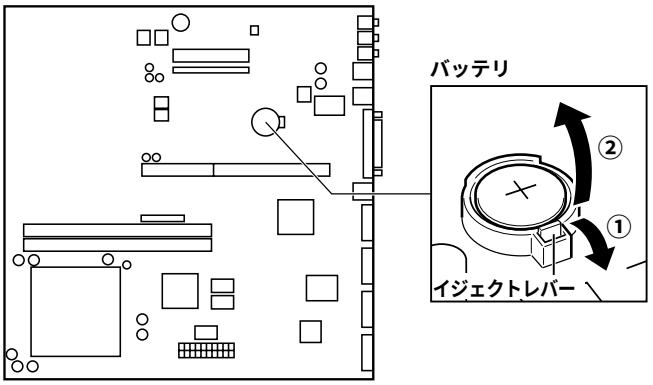
バッテリの交換は必ず次の手順に従ってください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントパネルシャーシを作業しやすい位置までスライドさせる
☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

4 イジェクトレバーを図の①の方向へ押す
バッテリが少し浮き上がります②。



5 新しいバッテリの（＋）側を上にして取り付ける

・バッテリの極性（＋、－）をまちがわないように取り付けてください。
＋側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

6 フロントパネルシャーシを元に戻す

☞「本章 7 フロントパネルシャーシの移動」

7 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

・再起動後、BIOS セットアップを起動し、再設定してください。
☞ BIOS セットアップについて ➪「5 章 BIOS セットアップについて」